

令和4年度 大阪府立港南造形高等学校 第1回 学校運営協議会 議事録

日 時 令和4年6月21日(火) 15:00~17:00

場 所 本校 本館1階 ガイダンスルーム

委 員 美濃 幸男 大阪樟蔭女子大学 非常勤講師 ※敬称略
渡邊 美香 大阪教育大学 准教授
宮原 康 近畿大学 非常勤講師
文野 忍 本校後援会
寺田 摩弥 本校PTA副会長

事 務 局 校長、教頭、事務長、教務部長、進路指導部長、生徒指導部長、
総務部長、保健部長、造形科長、人権教育推進委員長、
第1学年主任、第2学年主任、第3学年主任

議 事 1 開会の挨拶(校長)

2 委員紹介(教頭)

3 報告

(1) 令和4年度の学校運営方針(校長)

新年度に際して、「校内組織の見直し」「内規の見直し」を実行した。組織の見直しは、業務をマンパワーではなく、できるだけ組織で行う業務へと考え方を变えるもの。人員を刷新したために引継ぎができず苦勞しているという声も聴くが、業務分担、内容は改善されつつある。

コロナが少しずつ落ち着きはじめ、学校行事は、日程だけでも3年前の姿を取り戻しつつある。今のところ行事は延期することなく順調に運んでいる。

令和4年度の学校経営計画の「めざす学校像」では「プロフェッショナルの育成」を改め、「社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティーをもった人間の育成」とした。

「中期的目標」は大きくは変えず、部分修正をしている。ICT教育の推進については、さらに工夫した活用を模索し続けたい。

2.(1)アには『美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就勞につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。』という文章を入れた。自分たちの将来が見えてこず、漠然と上級学校へ進学する生徒が多くいると感じ、その子たちに将来を考えるきっかけ、機会を提供したいと考えている。

2.(1)イでは、『生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にする心、社会のルール

を守る態度を養う。』を新設し、成人年齢が18歳に引き下げられた今、社会的なルールや命の尊さを含む人権意識の高揚をめざしたい。3. では、センター校としての機能をより強化した文面にした。

3. 本年度の取組内容は、1. では、ICTのハード面では整いつつあるため、ソフト面で研修や公開授業を行いつつ、使いこなし活用できる教員へと変わっていかねばならないと考えている。2. では、他との連携をコロナ以前の状態に戻し、さらに深めていきたい。今年度は様々な分野で活躍している本校卒業生を招いての卒業生によるパネルディスカッションを実施する。今を輝く卒業生が、現在どのようなお仕事をなさっておられるのか、今の活動がどのように社会とつながっているのか、本校で学んだことがどのように生かされているのかなど、語ってもらう予定。さらに、地域連携、地域交流の復活として、『すみのえアートビート』への参加、住之江支援学校との交流、地域との合同避難訓練などを計画している。

これまで大阪市立美術館で行われていた『高校展』がブロックごとの分散開催になり、本校は本校だけの単独ブロックのため、高校展が校内展の形になる。それでも府立学校を牽引できる展覧会となるよう心掛けていきたい。会期は7/30～8/5。

『全国の中心的役割』では、全国規模の研究大会の開催がそろそろ大阪に回ってくるということが具体化してきている。4年後にその運営ができる組織となるよう、本校教員を含め研究会や連盟の教職員の育成が急務と考えている。

(2) 各部・科より報告

①教務部

- (1) 学校行事
- (2) 新教育課程
- (3) 今後の対応

②生徒指導部

- (1) 生徒指導部内に生徒会担当を置く
- (2) 昨年度から継続の取組み
- (3) 身だしなみ等

③進路指導部

- (1) 各種進路説明会実施状況
- (2) 就職指導・進学指導
- (3) 3年生(17期生)進路希望について(6月1日現在)

④総務部

- (1) 学校広報活動
- (2) P T A活動

⑤保健部

- (1) 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策
- (2) 各種検診

- (3) 防災避難訓練
- (4) 今後の各種講習会

⑥造形科

- (1) 実習授業
- (2) 高校展

⑦第1学年

- (1) 在籍者数
- (2) 学校生活
- (3) 修学旅行

⑧第2学年

- (1) 在籍者数
- (2) 修学旅行
- (3) 進路希望調査

⑨第3学年

- (1) 在籍者数
- (2) 進路指導
- (3) 学校生活

⑩人権教育推進委員会

- (1) 人権教育
- (2) 教職員対象人権研修

4 協議（議長 美濃委員）

（委員）

I C T端末は大学でも活用が進み、学生間で浸透している。

学校のイベントで友人関係が広がることは良いこと。一方で、生徒がひとりで昼食をとっていても違和感がない、無理に友人関係を持たなくてもよい雰囲気は港南造形の良さであると思う。

（委員）

学校経営計画のうち「社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成」の「美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。」に共感を覚えた。自分の好きなことが将来につながるのか、目標に一直線でなくても、様々な角度から仕事につながることもあるため、様々な分野で活躍する卒業生の講演は今後も進めてほしい。

（委員）

「コロナ以前」の行事が少しずつ復活しており、少しでも楽しいものになれば良いと思う。

学校としてどのように「創造力」や「バイタリティ」を養っていくのかを明確にしていけば、生徒たちも自分自身の成長を感じられるのではないかと。

(委員)

生徒が将来を考えるきっかけを作ることは良いこと。将来のことを考えながら、高校生活を送ってほしい。

今年の1年生から導入される「観点別評価」について、これまでと異なる評価になるのか。

(校長)

以前より、観点別評価は行っており、本年度入学生から評価が4観点から3観点となった。これまでは点数で表記していたものを観点別にABCの表記をすることになった。生徒の活動や作品を評価することは変わらないが、観点別に評価を出すことが今回の変更点である。

(委員)

校内の行事が「コロナ前」に戻りつつあることを感じている。先生方の尽力に感謝する。学校でのイベントは、その意義も説明してもらえると皆が納得して行動できるのではと思う。今後も地域の方と繋がるイベントをお願いしたい。

5 閉会のあいさつ（校長）